

歴史ある農業用水を
次世代へ引き継ぐ

国営かんがい排水事業
吉井川地区

農林水産省
中国四国農政局
吉井川農業水利事業所

江戸時代から続く、農業用水

吉井川は、岡山県東部に位置し、旭川と共に備前国の二大河川で、かつては「東の大川」と呼ばれていました。その源は中国山地の三国山（標高1,252m）に発し、南に流れて児島湾の東端に注ぐ一級河川です。

流域の開発は、県下三大河川の中で最も早い約1,700年前からであり、平安初期には下流部の水田開発が始まったと言われています。

また、吉井川は岡山県南部と北部を結ぶ運輸系統の大動脈であり、高瀬舟による水運が江戸時代以前から発達し、流域は栄えていきました。1)、2)



▲在りし日の田原井堰



▲備前国絵図

(本図に示される時期は1687～1691年の間と想定される。沖新田や幸島新田の開発に伴って誕生した、吉井川地区の受益地である沖新田、幸崎・幸田・幸西などの村名が確認できる。)

(資料提供：岡山県立図書館・電子図書館システム「デジタル岡山大百科」)

(参考文献)

- 1) 岡山大学法文学部教授藤井駿 編：吉井川史 (1957)
- 2) 宗田克巳 著：吉井川 (1975)
- 3) 中国四国農政局山陽東部土地改良建設事務所：岡山平野鳥瞰記－永忠と蕃山

江戸時代前期には、財政難に見舞われていた岡山藩の石高増強策として大規模な新田開発が展開されました。この開発の指揮を執ったのが津田永忠であり、左図の「備前国絵図」にも示される幸島新田や沖新田などの干拓を行いました。

また、農業用水を取水するために、吉井川に田原井堰や坂根堰、吉井堰といった多くの井堰が築造されました。3)

つ だ な が た だ

津田永忠 (1640年～1707年)

日本三名園の一つである後樂園の造営や講堂が国宝に指定されている閑谷学校の建設のほか、田原井堰築造及び田原用水の開削や新田開発の干拓等の農業土木にも多くの功績を残しています。



岡南大橋左岸に設置されている像

吉井川地区に現存する津田永忠の主な功績

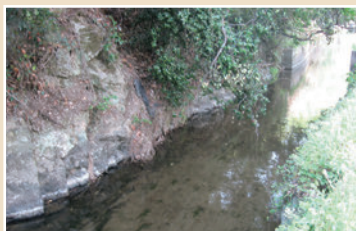
いし かけ ひ 石の懸樋



田原用水と地区内の河川（小野田川）が交差する地点に石造の水路橋が建設されました。現在は、近隣の記念公園に移転・復元されています。

(県指定重要文化財〈建造物〉)

ひゃっけん いし ひ 百間の石樋



田原用水を通水させるため「熊野の岸陰（ほき）」と呼ばれた硬い岩壁を掘削した長さ約180mの用水路です。石の懸樋と並ぶ難工事でした。

(県指定史跡)

くら やす が わ よし い すい もん 倉安川の吉井水門



吉井川の取水口に水門が二重に設置され、囲まれた船だまりで吉井川と倉安川の水位を調整する当時の最先端技術を用いた「閘門（こうもん）式」の水門です。

(県指定史跡)